

長野県

民俗の会通信

第314号

○長野県民俗の会第二五〇回例会 池田町巡見に参加して
 ○小松和彦氏の文化勲章受章祝賀会
 ○書誌紹介 三橋順子『歴史の中の多様な「性」——日本とアジア変幻するセクシュアリティ』
 辻本侑生・島村恭則編著『クィアの民俗学——LGBTの日常をみつめる』……下平 武
 ○葉書でつぶやくコーナー しめ縄と七夕人形……木下 守

木曾 寿紀
 胡桃沢勘司
 下平 武
 木下 守

長野県民俗の会第二五〇回例会 池田町巡見に参加して

はじめに

長野県民俗の会第二五〇回例会は、令和八年五月二五日（日）一〇時～一五時（予定）に開催された。県下北安曇郡池田町を巡見先として企画され、新規会員として初参加ながら新鮮味に富んだ巡見であった。

池田町在住の小野和英先生を講師に、参加者は民俗の会会員八名、また講師の招きで大町岳陽高校から市川校長を迎え、講師を含めて計一〇名で町域を巡った。

筆者は北安出身者として常日頃、視界に入りながらも、見過ごしてきたものを再度捉えなおし、改めて池田町域の変遷や歴史、文化、信州のなかの池田という地域への理解を深める事ができた。池田八幡神社から池田鉄道駅舎跡など市街地、さらに山奥の広津地区の百体仏像や広津小学校跡、そして池田町立文化財資料館と池田町出身で童謡「てるてる坊主」の作詞者、浅原六郎（一八九五～一九七七）の展示をおこなう浅原六郎記念館の見学という三部構成での巡見について雑駁ながら参加記

木曾 寿紀

とするものである。なお引用文は便宜上、字句の統一等をおこなった。

1 池田八幡神社と十二社跡と池田学問所跡

(1) 池田八幡神社

集合場所の池田町役場駐車場から徒歩移動にて南側へ数メートル先の池田八幡神社を始めに訪ねた。神社社務所の門構えはかつて池田組の役居門として建てられ池田上学校、病院、戸長役場、池田役場門を経て現在地に建つ。町指定文化財として、しめ縄が門を飾る以外は往時の姿をよく保っている。

昭和初期、北安一帯の民俗等について、地域の教員が中心となり纏めた『北安曇郡郷土誌稿』（以下、郷土誌稿）中に採録される「殿小路」の項でこの役居門への言及がある。

「池田町の今の停車場通は以前殿小路といって幅三米位の狭い小路であった。松平康長が其子康直を伴って隠居する為元和五年の冬の頃から今の信濃池田駅の直ぐ西に続く地に築城し始めた。殿小路はその大手口であった。

此の城は寛永六年まで十一年間工事はかなり進んだのであったが、其の後康直が明石へ国替になったため中止となった。

この小路にはお他屋（庄屋が会議をした所）や郷倉などがあった。今の池田町役場の門はこのお他屋の門である。（傍線部、筆者）（1）とあり、郷土誌稿にある昭和初期段階では池田町役場の門に使用されている事が伺える。文中の殿小路は松本城主戸田康長（一五六二～一六三三）が隠居のため池田へ作らせようとした「若松城」を指す。郷土誌稿の「口碑伝説篇」は場所の判然としないものも少なくないが、符合させる事のできるものの一つになっている。

池田八幡神社境内に移動し、本殿を北に東側には例大祭で街中を練り歩く山車を収める山車蔵がある。これは元々十二神社が池田八幡神社へ統合され今の位置に齎されたものという。会員中から山車に用いられている人形について他所よりの使い回し、払下げ等によるものか否か問いが出たがその場で結論へ至らず、紙面前の会員中、心当たりあればご教示願いたい。

(2) 境内石碑等

本殿を背に、南側の鳥居を抜けると、向かっ

長野県民俗の会通信三二四号

二〇二六年七月一日

会費年額 五、〇〇〇円

長野県民俗の会

振替 〇〇五二〇一三一三六五七

長野県民俗の会

E-mail : info@nagano-minzoku.chu.jp

URL : <http://nagano-minzoku.chu.jp/>